

令和 6 年 4 月 29 日現在

機関番号：17701

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K17289

研究課題名（和文）歯学部学士課程におけるプロフェッショナリズムの醸成過程と影響因子の解明

研究課題名（英文）Exploration of the Professionalism Development Process and Influencing Factors in Undergraduate Dental Education

研究代表者

大戸 敬之（OTO, Takayuki）

鹿児島大学・医歯学域鹿児島大学病院・助教

研究者番号：60754299

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、歯学部生のプロフェッショナリズム醸成過程および影響因子を明らかにした。歯学部生へのインタビューの逐語録からプロフェッショナリズムモデルを構築した結果、4年生では14の構成概念から3つのテーマが、5年生では20の構成概念から3つのテーマが抽出された。4年生と5年生の比較を行うことで、影響因子の一つとして臨床実習が考えられた。これらの結果から、プロフェッショナリズム教育カリキュラムへの示唆と、早期体験実習といった低学年からの臨床にふれる科目導入の重要性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

歯科医師のプロフェッショナリズムは、『歯学教育モデル・コア・カリキュラム』においても基本的な資質としてあげられているが、日本の歯学部生のプロフェッショナリズムがどのように育まれて、その後歯科医師のプロフェッショナリズムへと変遷するのか、その醸成過程は明らかとなっていない。本研究により、醸成過程や影響因子の一部が明らかになり、教育カリキュラムに応用する基盤的情報を得ることができた。今後、カリキュラムをさらに充実させることにより、社会に求められる誠実で卓越した歯科医師育成に寄与できると考える。

研究成果の概要（英文）：This study elucidated the process of professionalism development and key influencing factors among dental students. Through analyzing verbatim transcripts of interviews with students, models of professionalism were constructed. For fourth-year students, three themes emerged from fourteen concepts, while for fifth-year students, three themes were derived from twenty concepts. The comparison between the cohorts indicated that clinical training is a crucial influencing factor. These findings underscore the importance of integrating early experiential learning into the curriculum to enhance professionalism education from the lower academic years.

研究分野：歯科医学教育学

キーワード：プロフェッショナリズム 医療プロフェッショナリズム 省察 歯科医学教育 プロフェッショナリズム教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、卒前・卒後の歯科医学教育にプロフェッショナリズム教育を公式に導入する動きが進んでいる。歯科医師国家試験出題基準には、歯科医師のプロフェッショナリズムが必修の基本的事項として、既に取り上げられている。さらに、『歯学教育モデル・コア・カリキュラム』においては、歯科医師として求められる基本的な資質・能力の1番目にプロフェッショナリズムがあげられている。加えて、近年の医療系学生によるモラルハザード事例などが報道で取り上げられており、教育現場だけでなく国民の関心も高まってきている。しかし、プロフェッショナリズムで求められる具体的な内容は、時代や国・地域、集団などによって異なるものである¹。これは様々な宣言を発し、プロフェッショナリズム教育の先進である欧米諸国においても同様であり、そのため、各分野・職種においてプロフェッショナリズム研究を推進していくことは重要となっている。

そして昨今の研究から、医師のプロフェッショナリズムの形成過程のモデルとして、Keganの6段階からなる構造発達理論が有用である可能性が示された²。このモデルでは、人の成長は一方向の変化ではなく螺旋型であるとしている。研究代表者は、プロフェッショナルに必須の能力とされる省察について研究を実施し、研修歯科医は学士課程から臨床研修を経て生涯研修へ向かって螺旋型に成長していき、臨床研修では管理型・協力型のそれぞれの施設で、組織文化への受容・共有というプラス因子と、指導歯科医などからの拒絶や否定といったマイナス因子が存在することを明らかにした³。

このように研修歯科医のプロフェッショナリズムや成長については明らかになりつつあるが、学士課程におけるプロフェッショナリズムの醸成過程や影響する因子については未だ明らかとなっていない。

2. 研究の目的

本研究は、歯学部で歯科医師養成課程において、歯学部の学生がプロフェッショナリズムをどのように獲得し、成長していくのかについて明らかにすることを目的とし実施した。その上で、学習者や社会性などの多様な視点から歯学部の教育プログラムの改善点を検討し、今後のプロフェッショナリズムの新しい評価法やプログラム開発へと役立てる。

3. 研究の方法

2018年から2019年にかけて、鹿児島大学歯学部の学生を対象に半構造化面接を実施した。参加者は、多様な視点を確保するために、研究に参加することに同意した者の中から無作為に選んだ。最終的な参加者数は、理論的飽和(データから新たなテーマが生み出されない状態)を確認して決定した。その結果、最終的に4年生6名と5年生9名が参加者となった。インタビューはすべて研究代表者が行い、インタビュー・プロセス全体の一貫性を確保した。インタビュー時間は、1人当たり平均約25分であった。インタビュー中の音声は録音され、それを基に逐語録を作成した。半構造化インタビューのインタビューガイドには以下のような質問が含まれている。"参加者の背景(歯学部に入学した動機など)"、"歯科医師に求められる資質"、"理想とする歯科医師像"などである。

データ分析は、作成した逐語録をもとに、質的手法の一つである主題分析によって行い、分析はインタビューと同時進行で実施したうえで、各学年のプロフェッショナリズムモデルを作成した。

4. 研究成果

インタビューの逐語録からプロフェッショナリズムモデルを構築した結果、4年生では14の構成概念から3つのテーマが、5年生では20の構成概念から3つのテーマが抽出された。

具体的には、4年生へのインタビューからは、「多様な治療知識と高度な診断能力」、「歯科医師としての技術力と治療全般に対する責任感」、「人間関係の構築と尊重」の3つのテーマが得られた。5年生へのインタビューからは、「安全で効果的な治療のための総合的知識」

「歯科医師としての卓越性」、「歯科医師としての誠実な態度と優れたコミュニケーション能力」の3つのテーマがあげられた。

4年生では、主に座学と実習を中心としたカリキュラムが組まれているため、必然的に知識と技術力への志向が顕著となる。「技能・技術」も非常に重要ではあるが、技術的なスキルがあれば、他の領域の技能の不足を補うことが可能であるという考えが現れていた。知識や態度といった領域を軽視することは好ましくないことから、技能・技術以外の領域の重要性を伝えることも不可欠である。

5年生では、「誠実さ」や「コミュニケーション能力」など、態度に焦点を当てた構成概念が多いことが特徴的であった。5年次におけるクリニカル・クラークシップの経験は、教員や患者との直接的な関わりの中で観察されるように、学生の態度の変化に大きく寄与したと考えられる。特筆すべきは、「治療を開始できること」と「治療を継続できること」の重要性に対する認識が

高まったことである。また 4 年生の概念に比べてより幅広い構成概念から構成されている。

以上のように、本研究では、歯学生のプロフェッショナリズムは、卓越した技術、多様な治療知識、真摯な態度、優れたコミュニケーション能力などの要素で構成されていることが明らかになった。このことから、プロフェッショナリズムの構成要素を包括的に扱う教育カリキュラムを設計することが極めて重要であり、臨床実習を経験する 5 年生の状況を鑑み、早期体験実習など、学生が早い段階から現場の実情や歯科医師の行動を肌で感じることができる仕組みも有益であると考えられる。

<引用文献>

1. Birden, Hudson, et al. "Teaching professionalism in medical education: a Best Evidence Medical Education (BEME) systematic review. BEME Guide No. 25." *Medical teacher* 35.7 (2013): e1252-e1266.
2. Cruess, Richard L., et al. "A schematic representation of the professional identity formation and socialization of medical students and residents: a guide for medical educators." *Academic Medicine* 90.6 (2015): 718-725.
3. Oto, T., et al. "Study of factors related to the reflection abilities of dental trainees." *European Journal of Dental Education* 21.1 (2017): 13-16.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Oto Takayuki, Matsumoto Yuko, Iwashita Yoichiro, Yoshida Reiko, Taguchi Norihiro	4. 巻 16
2. 論文標題 A Qualitative Study on the Development of Professionalism Among Japanese Dental Students	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Cureus	6. 最初と最後の頁 e51762
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7759/cureus.51762	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大戸 敬之、松本 祐子、鎌田 ユミ子、志野 久美子、岩下 洋一朗、作田 哲也、吉田 礼子、田口 則宏	4. 巻 54
2. 論文標題 認知負荷を意識したオンラインシステム使用のプロフェッショナリズム授業の実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 593～594
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11307/mededjapan.54.6_593	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 大戸敬之、松本祐子、鎌田ユミ子、志野久美子、岩下洋一朗、作田哲也、吉田礼子、田口則宏
2. 発表標題 歯科医師のe-Professionalismについての 基礎的調査
3. 学会等名 第55回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takayuki Oto, Yoichiro Iwashita, Yumiko Kamada, Yuko Matsumoto, Reiko Yoshida, Norihiro Taguchi
2. 発表標題 The process of fostering dental students' professionalism in Japan
3. 学会等名 AMEE 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大戸敬之, 岩下洋一朗, 鎌田ユミ子, 松本祐子, 作田哲也, 吉田礼子, 田口則宏
2. 発表標題 授業科目「プロフェッショナリズム」の受講経験の有無による学生のプロフェッショナリズム醸成過程への影響
3. 学会等名 第39回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大戸敬之, 作田哲也, 岩下洋一朗, 松本祐子, 吉田礼子, 田口則宏
2. 発表標題 プロフェッショナリズムの授業が歯学生に影響を与えるか?
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大戸敬之, 岩下洋一朗, 松本祐子, 作田哲也, 吉田礼子, 田口則宏
2. 発表標題 授業科目「プロフェッショナリズム」が歯学生のプロフェッショナリズム醸成に与える影響
3. 学会等名 第38回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大戸敬之, 岩下洋一朗, 松本祐子, 作田哲也, 吉田礼子, 田口則宏
2. 発表標題 鹿児島大学歯学部生のプロフェッショナリズムの醸成過程について
3. 学会等名 第1回南九州歯学会総会・学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大戸敬之, 中山歩, 作田哲也, 岩下洋一朗, 松本祐子, 吉田礼子, 田口則宏
2. 発表標題 効果的なプロフェッショナリズム教育についての一考察 鹿児島大学での教育実践例から
3. 学会等名 第37回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------